

都道府県番号	42
都道府県名	長崎県

【 】

*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	上県町立佐須奈小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	15	16	17	8	18	6	1	81	

研究の概要

(1) 研究主題

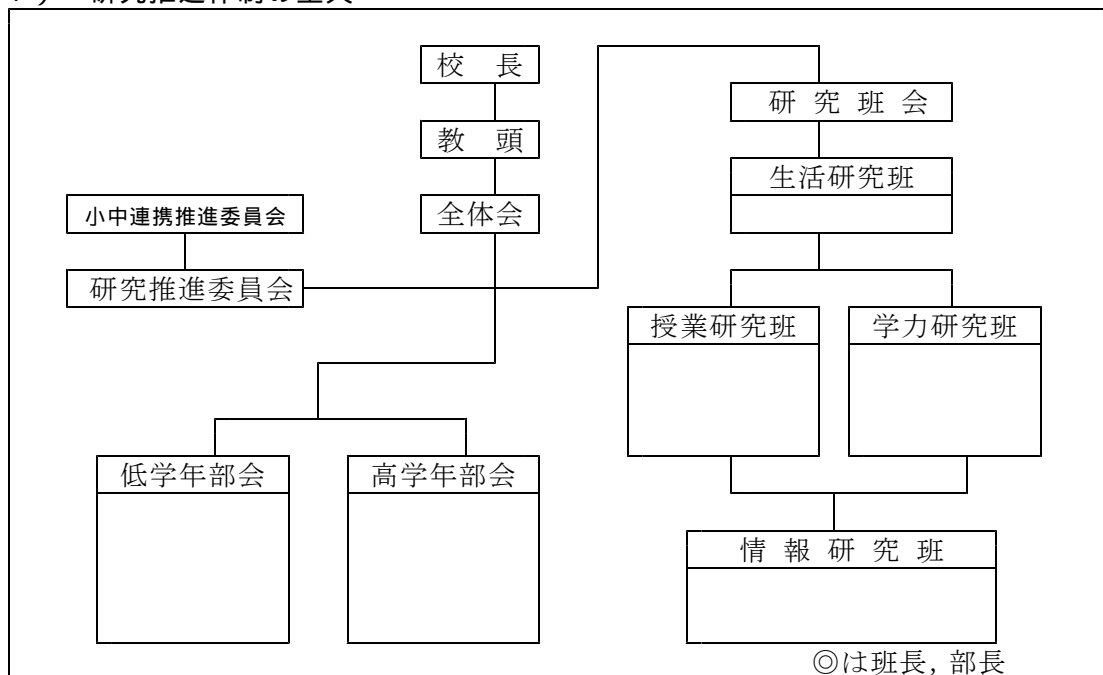
<p>生き生きと学び合う子どもの育成 ～算数科・指導法の工夫を中心として～</p>

(2) 研究主題設定の趣旨

<p>これからの社会を主体的に生きていくには、量的な知識や技能を押し込むのではなく、応用力の効く、かつ豊かに自分をつくっていくのに血となり肉となっていく基本的な知識や技能を確実に身につけ、活用できる能力を養う必要があるということである。これから求められる新しい学力は、学習内容そのものよりも、その学習にいかに関わり、一人ひとりの子どもが本来持っている意欲や思考力、判断力、表現力を伸ばして豊かな自己形成を図っていけるかが問われるのである。</p> <p>このようにとらえると学力と心の教育との一体化が重要になってくる。なぜなら、心の教育は人間らしい心を育てる教育であり、人間としてどう生きるかを主体的に考え、その実現に向けて日々の学習活動や生活を充実させていく子どもの育成を目指しているからである。</p> <p>以上のような理由から本校は、学力向上には一見遠回りにも見えるが、学力の育成と同時に心の育成を図る研究に取り組むことにした。</p>
--

研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

1 算数科における指導方法の工夫

指導方法・指導体制の改善

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	15	17	17	8	18	6
TT	TT専科	TT専科	TT専科	TT専科	TT専科	教務
週時数	4	5	5	2	5	2
習熟度別						
主担当	担任・TT	担任・TT	担任・TT	担任	担任・TT	担任

問題解決的な学習展開の工夫
 課題別・コース別学習の導入
 補充的・発展的な学習のための教材の開発
 学習状況の評価の工夫改善

- 朝の活動に「読書」「算数チャレンジ」「音読・暗唱」「体力づくり・集会」「漢字チャレンジ」の時間を設定し、充実を図ることで基礎的・基本的技能の習熟を図る。
- 小中の連携を図るための共通理解と同じ目的に立った小中それぞれの実践を行うことにより、9年間のスタンスで見た学力の向上を目指す。
- 学校生活において、あいさつ、礼節、健康などの基本的な生活習慣と態度の徹底を図る。また、総合的な学習の時間等において、「縦割り班を生かした体験活動」を行うことを通して、ものや人との豊かな関わり合いを持たせる等、心の基礎・基本の向上を目指し、学力面への有益な効果をねらう。
- 「国語科」「算数科」において、定期的に習熟の診断を行い、全校的な統計を出していく。そして、学力向上の研究課題を明確にし、研究の方途を明らかにする。
- 本校の研究に関する「どん子も通信」の発行など情報を保護者に提供することにより、地域を取り込んだ学力向上への取り組みを目指し、特色ある学校づくりの一翼を担う。

(3) 研究の成果と課題

1 研究の成果

単元テスト 14 年度との比較

学力の変容をはっきりとした数値で見えていくためには、単元テストの点数を昨年度の同学年のものと比較する方法がある。但し、クラスが違ふことによる個人差が随分あるので、点数だけの単純な比較だけでは確かな検証はできない。そこで、全国標準学力検査の領域別全国比も加味しながら検証した。

「本校単元指数(換算点)」＝「素点」÷「学力検査同領域全国比」で求める。全てのクラスが学力検査全国比が100であった場合に、素点が何点という値があるのかということの数値で出したものである。

単元名	領域	14年度児童			15年度児童		
		素点	学力検査 同領域全国比	本校単元指 数(換算点)	素点	学力検査 同領域全国比	本校単元指 数(換算点)
平均	-	87.3	-	87.2	88.1	-	88.0

【5年生：Cレベルの児童2名の単元テストの素点】

	小数と整数 のしくみ	小数のかけ算 とわり算1	小数のかけ算 とわり算2	垂直・平行 と四角形1	垂直・平行 と四角形2	平均点
児童A	55	70	65	80	85	71
児童B	60	65	65	90	100	76

単
元
テ
ス
ト

を昨年度と比較してみると、素点で0.8点、本校単元指数においても0.8点上がっている。特に5年生の伸びが顕著であった。5年生は平均素点で8.6点、本校単元指数では22.1点も向上している。(別紙資料添付)5年生には、全国学力検査の結果においてCレベルの児童が2人いる。そしてまた、4領域の中で3領域が全国平均に達していないという大きな2つの実態からも、新年度からすぐに習熟度別学習に計画的に取り組んできた。もちろん、そのねらいは「全児童に理解させること」であり、単元テストの伸びはその成果の表れであろう。

2 今後の課題

全職員が、問題解決学習の研究授業を頻繁に見せ合い、腕を磨く。そして、新たな課題を発見し、今後に生かしていく。

問題解決学習のキーポイントとなる「練り上げ」の場面は、「表現力」と大いに関わっていることから、全校挙げて「表現力の向上」に取り組んでいく。

以上の2点を大きな課題にし、15年度の研究内容を充実させていく。

1 研究の重点課題を絞り、実践力・指導力の向上を図る。

(1) 課題解決学習の研究

(2) 表現力の育成

2 朝の活動の創意工夫

3 小中の連携(小学校の基礎基本の確実な定着)

(1) 漢字検定制度の改良

(2) 算数段位設定への新たな取り組み

4 心の基礎基本の定着と実践化

(1) 縦割り班活動の充実

(2) 意欲を引き出す場の設定

- 5 習熟の診断
 - (1) 学力テストの診断と分析
 - (2) 単元テストの診断と分析
- 6 情報公開
 - (1) 学校だよりの発行
 - (2) HP の内容の充実

(4) 研究成果の普及と方策

- 1 学力向上フロンティア事業中間研究発表会開催 (H15.10.31)
- 2 対馬地区小学校教育課程研究協議会にて実践発表 (H14.7, H15.7)
- 3 ホームページ完成 (H15.9)
- 4 研究集録を島内全小・中学校へ配布 (H16.3)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・「心の基礎基本」の充実が学力向上のために欠かせないことであるとし、心の教育の指導・研究を合わせて行っている。遠回りのようであるが、学力向上に大きな効果があった。
- ・学力の診断と検証を、学校独自の方法で実施し、一人ひとりの学力の診断や学校としての傾向を具体的な数字で表し、指導の効果を上げている。
- ・併設校の特色を生かし、中学校との連絡・協力を図っている。
 - ・中学校の先生に、小学校で身につけてほしい学力等のアンケートを実施し指導に生かす。
 - ・中学校で実施している検定等を小学校で実施している。